

さいたま市文化財時報

かや 榎りぼーと

第64号

平成28年度 埋蔵文化財の調査・展示・紹介

『埋蔵文化財』とは、様々な文化財のうち、地中に「埋蔵」された「文化財」のことです。^{たてあな}竪穴住居跡、貝塚、古墳など、構造物の痕跡である「遺構」と、土器、石器、土偶、^{どくろ}埴輪^{はにわ}など、物品である「遺物」に大きく分けられます。

埋蔵文化財は、はるか昔の我々の祖先が造り出したものがそのまま保存された、当時の生活を知るための重要な資料であり、長い年月をかけて育まれてきた歴史や文化を伝える貴重な存在です。

さいたま市内にも、旧石器時代から近世のものまで、様々な埋蔵文化財が遺されています。埋蔵文化財が存在する地域は、一般的には「遺跡」、行政上では「埋蔵文化財包蔵地」と呼んでいます。現在、市内の各地には、「埋蔵文化財包蔵地」が1,128か所確認されています。埋蔵文化財は、一度地中から掘り出してしまうと、二度とは元に戻せないものであるため、できるだけ埋もれたままの状態を保存することが望ましいのですが、土木工事などで壊れてしまうことが避けられない場合には、記録として保存するため、工事着手に先立って発掘調査を実施しています。

今年度、土木工事等に先立って実施した発掘調査は、2月末までに19件ありました。また、昨年10月から12月には、岩槻区に所在する国指定史跡「真福寺貝塚」の整備を目的として、学術的な発掘調査を行いました。

今回は、これらの発掘調査の中から、6件の調査の成果をご紹介します。



▲発掘調査のようす(真福寺貝塚)

しんぶくじかいづか 真福寺貝塚の調査 ————— 〈岩槻区〉

東武野田線岩槻駅の南東約1.6km、岩槻区城南3丁目に所在します。遺跡は大宮台地の東側、岩槻支台^{しだい}と呼ばれる、綾瀬川の左岸の台地上に位置する縄文時代後期から晩期にかけての遺跡です。

付近には、綾瀬川につながる支谷^{しこく}が南西方向からのびてきており、この谷に面する低地部分とその東側の台地部分が遺跡の範囲です。



▲土器出土状況(真福寺貝塚)

これまでの調査で、低地部分では、台地上だと通常は残りにくい木製や植物製の遺物が、大量の土器とともに出土しました。一方、台地部分では、この谷に向かって貝層や住居跡が馬蹄形状の高まりを形成して分布していることが分かっています。

今回調査を行った地点は、真福寺貝塚の東側、貝層や住居跡が遺された馬蹄形状の高まり部分です。この部分の土層がどのように堆積しているのかを明らかにするため、平成28年10月から12月にかけて、発掘調査を行いました。

調査の結果、厚さ約1mの土の堆積の中から、縄文時代の貝層や、縄文時代後期から晩期の土器などの遺物、土坑、柱穴等の遺構を確認しました。この調査により、現在みられる馬蹄形状の高まりは、縄文時代後期前葉(約3,800年前)から晩期中頃(約2,500年前)までの約1,300年間という非常に長い期間、人々が連綿と生活してきた結果、形成されたことが明らかになりました。



▲貝層から出土した鹿の角や骨(真福寺貝塚)

まえくぼ 前窪遺跡の調査

〈浦和区〉

JR北浦和駅の北東約2.3km、浦和区木崎に所在する遺跡です。見沼田んぼの南側の台地上に位置します。

今回は前窪遺跡での10地点目の発掘調査です。賃貸住宅の建設に先立ち、さいたま市遺跡調査会が平成28年3月から4月にかけて実施しました。調査の結果、縄文時代後期の住居跡4軒、土坑16基、中世の土坑1基、溝1条、縄文時代後期～晩期の土器・石器などの遺構・遺物を検出しました。

今回の成果から、当遺跡は縄文時代後期の前葉から中葉(約3,800年～3,500年前)にかけて集落が形成されていることが確認されました。また住居跡とともに検出することの多いフラスコ形の土坑を、今回の調査でも3基検出しました。



▲縄文時代の住居跡(前窪遺跡)

うちみちにし 内道西遺跡の調査

〈中央区〉

JR埼京線と野本町駅の南西約1.2km、中央区上峰に所在する遺跡です。西側に荒川の谷を望む台地上に位置します。

今回は内道西遺跡での5地点目の発掘調査です。分譲住宅の建設に先立ち、さいたま市遺跡調査会が平成28年3月から6月にかけて実施しました。調査の結果、縄文時代中期の住居跡10軒、土坑38基、平安時代の住居跡2軒、道路状の遺構と考えられる硬化面を検出しました。長径が6mを超える大きさの縄文時代中期(5,000年前)の住居跡が発見され、土器を埋めて炉として用いた状況が良好に遺されていました。



▲土器を炉として用いた住居跡(内道西遺跡)

なかのだなかはら

中野田中原遺跡の調査

〈緑区〉



▲弥生時代の住居跡(中野田中原遺跡)

埼玉高速鉄道浦和美園駅の北西約0.7km、緑区大字中野田に所在する遺跡です。綾瀬川を東に望む台地上に位置します。

今回は中野田中原遺跡での5地点目の発掘調査です。土地区画整理事業に先立ち、さいたま市遺跡調査会が平成28年6月から8月にかけて実施しました。調査の結果、縄文時代前期の住居跡5軒、縄文時代の土坑40基、弥生時代後期の住居跡3軒、近世以降の溝8条、縄文時代、弥生時代の土器、石器などの遺構・遺物を検出しました。

今回の調査により、縄文時代前期(6,000年前)の集落の広がりを確認することができました。

かぎあげたかおかきた

釣上高岡北遺跡の調査

〈岩槻区〉



▲再葬に使われた弥生時代の土器(釣上高岡北遺跡)

埼玉高速鉄道浦和美園駅の東北約2km、岩槻区大字釣上に所在する遺跡です。綾瀬川と元荒川に挟まれた沖積低地に広がる自然堤防上に位置します。

今回は釣上高岡北遺跡での2地点目の発掘調査です。土地区画整理事業に先立ち、さいたま市遺跡調査会が平成28年8月から10月にかけて実施しました。調査の結果、弥生時代中期の土坑30基、溝1条、平安時代の土坑4基、弥生時代中期の土器などの遺構・遺物を検出しました。中でも、弥生時代に特有の、土器に納骨して埋葬する「再葬墓(さいそうぼ)」を検出したことが注目されます。

しらくわみやこし

白鍬宮腰遺跡の調査

〈桜区〉



▲古墳時代の住居跡と出土土器(白鍬宮腰遺跡)

JR 埼京線と野本町駅の西約2.1km、桜区大字白鍬に所在する遺跡です。大宮台地日進と野支台の西縁にあたる台地上から自然堤防上にかけて位置します。

今回は白鍬宮腰遺跡での15地点目の発掘調査です。分譲住宅の建設工事に先立ち、さいたま市遺跡調査会が平成28年8月から9月にかけて実施しました。調査の結果、古墳時代前期の住居跡1軒、平安時代の住居跡1軒、平安時代～中世の溝2条、近世の溝3条、古墳時代の埴輪、土器、平安時代の土器、中世の輸入磁器などの遺構・遺物を検出しました。古墳時代の住居跡からは、多量の土器がまとまって出土しました。

埋蔵文化財の展示・紹介

さいたま市では、埋蔵文化財の調査のほか、皆様に埋蔵文化財をご紹介します、理解を深めていただくための活動も行っています。

平成28年9月から12月には、市内の発掘調査の成果をいち早くご紹介する「最新出土品展」を、さいたま市立博物館(大宮区)、岩槻区役所(岩槻区)、コクーンシティ(大宮区)、浦和区役所(浦和区)の各会場で開催しました。今回は公共施設のほか商業施設でも展示を行い、多くの方にご来訪いただきました。

9月10日には、「さいたま市内遺跡発掘調査成果発表会」を大宮図書館視聴覚ホールで開催し、市内の遺跡の調査成果を各調査担当者が発表したほか、さいたま市遺跡調査会の柳田博之主任調査員による「近年におけるさいたま市内縄文時代後晩期集落跡の調査成果」、文化庁記念物課の水ノ江和同文化財調査官による「史跡真福寺貝塚の保存と活用」についての特別講演を行いました。発表会終了後は、市立博物館の特別展示室で開催した「最新出土品展」において、発表を行った調査担当者が出土品の展示解説を行いました。



▲最新出土品展(コクーンシティ)

お知らせ

□さいたま市指定無形民俗文化財「南部領辻の獅子舞」の公開

平成29年5月14日(日)〔予定〕(雨天中止)

10時～ 鷲神社(緑区南部領辻2941)

13時～ 南部領辻地区内

春の公開は、鷲神社を出発し、南部領辻地区内を巡る村祈禱があります。

※天候等により日程が変更となることもありますので、詳しくはさいたま市のホームページをご覧ください。文化財保護課(☎829-1723)までお問合せください。



▲村祈禱の様子

□国指定特別天然記念物「田島ヶ原サクラソウ自生地」の案内

「田島ヶ原サクラソウ自生地」(桜区桜草公園内)において、ボランティアによる案内・解説を4月23日(日)まで毎日(9時30分～16時)実施しています。

サクラソウをはじめ、ノウルシやヒキノカサなどの稀少種を含む多くの野草をご覧ください。

※雨天の場合は中止となります。

開花情報はさいたま市のホームページでお知らせしています。



▲サクラソウ